

風景を味わう空と地の交差

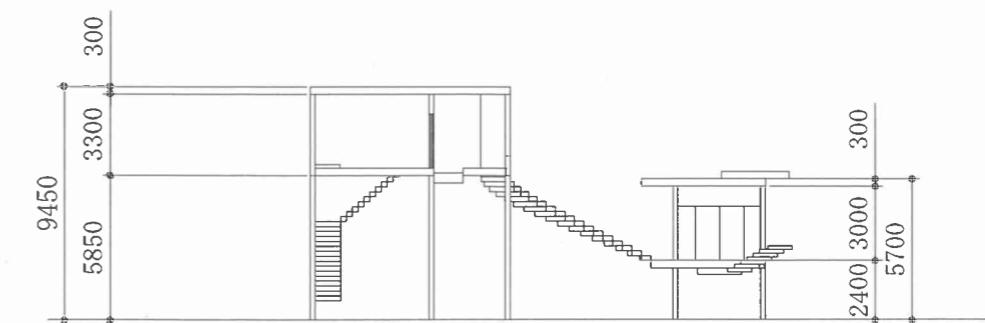
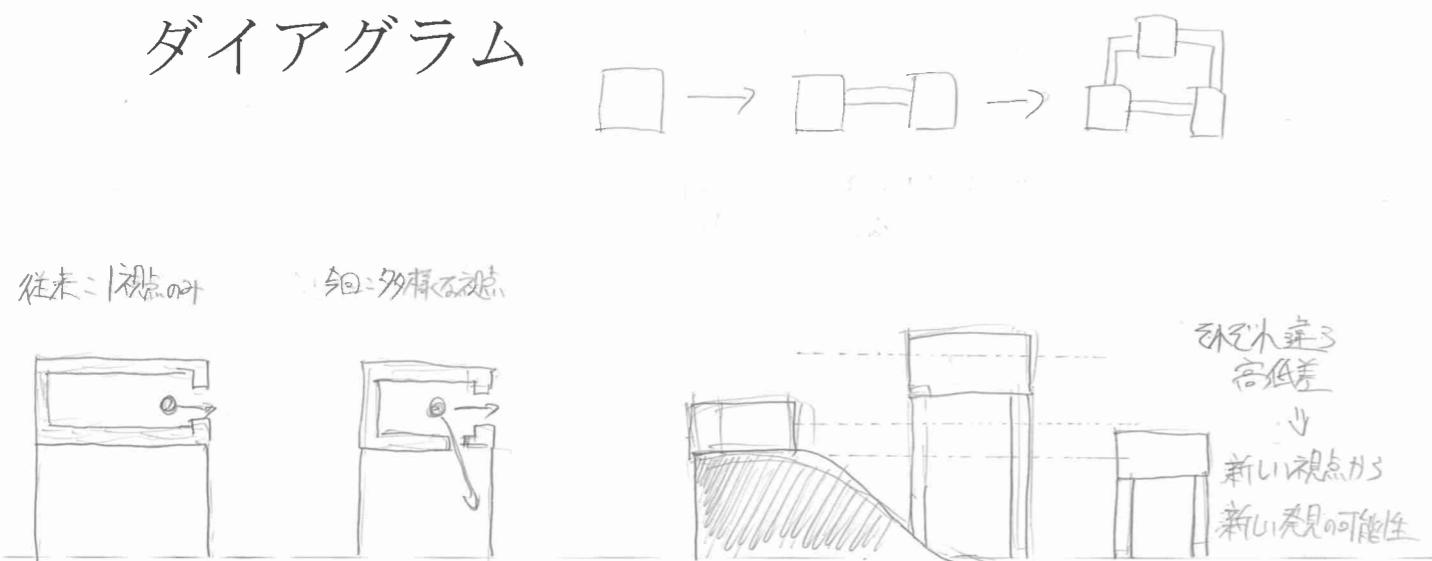
手法 床窓と下光

コンセプト

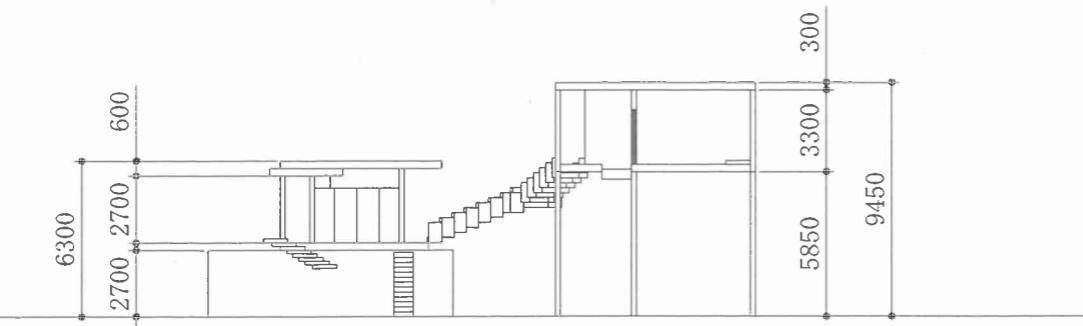
旅行が好きで下呂温泉や黒川温泉に行きふと思ったのはどの旅館も自分達の部屋から見れる景色は変わらなく途中から飽きてしまうと思った。そこで空間を三つにし、更に高低差をつけることで様々な場所から異なる視点で風景が見れると思った。そしてそこに今回のテーマである名もない表現を組み合わせてみることにした。

私が提案する手法は床窓と下光の二つです。まず床窓は空間にある床や畳の一部をガラスや窓に変えることで部屋の中においても外観を見たり外の空気を感じることができます。二つ目の下光とは名前の通り下から光を入れるのですが、実は三つある空間月影、光影、光縁居と名前がありますがこのうち月影には天井部分に照明がありますが、ほかの二つにはありません。光影と光縁居は空間の下部分がピロティ状になっておりその下部分から光を室内の空間へと入れることで違った光の入り方がすると思います。

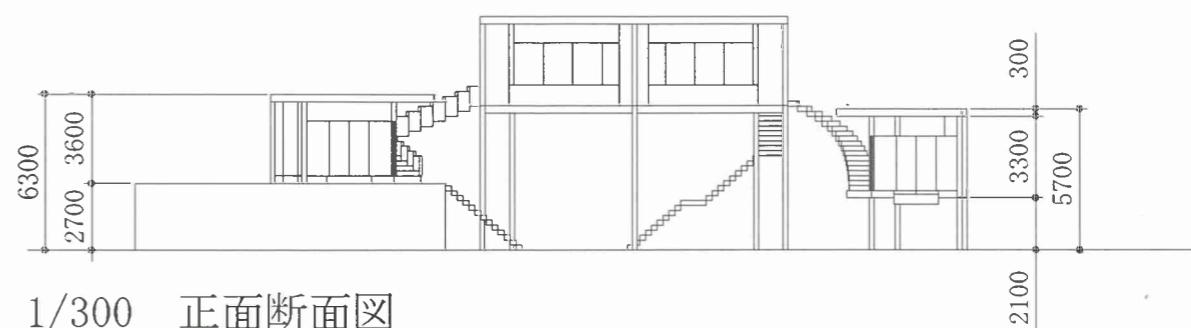
ダイアグラム



1/300 右側面断面図



1/300 左側面断面図



1/300 正面断面図

概要

中庭を囲うように三つの高さが異なる空間を配置。それぞれの空間には三種三様の回廊通り移動する。空間も回廊も個々に用途があり違った体験ができる。